

データ駆動型農業（施設園芸）の展開に向けた**連携協定**について

【現状】

農業者の高齢化や労働力不足が進む中、**持続可能な施設園芸を実現**するためには、**デジタル技術の導入が必要不可欠**。

【取組】

R4からハウス内環境データなどを蓄積する**データ共有基盤の構築**や、わかりやすく操作できる**アプリを開発**し、デジタルデータの活用を開始。

【課題】

今後、様々なデジタルデータが効果的に連動した**データ駆動型農業を展開・強化**するためには、データの蓄積から提供、分析、指導まで一貫通貫した協力体制が必要。

データ駆動型農業の展開・強化

 JAみやざき

栽培指導
(出荷データ)



※県内生産者を代表する組織
※出荷データの提供

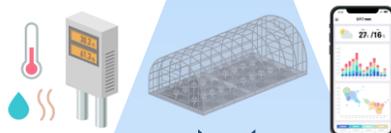
 宮崎県
Miyazaki Prefecture

栽培技術の普及・開発



※協定に関する調整事務

ステージ1
栽培環境の見える化



ステージ2
見える化した栽培環境の最適化



ステージ3
最適化した環境の制御と管理の自動化



 NEPON



データ蓄積・提供
(データ共有基盤)

※農業用暖房機メーカー
※データ運用サービス
「Chabu-dai」を開発

Marchen Group
 メルヘン



AI分析
(アプリ開発)

※一次産業を主軸とする
AI分析システムを開発
※本店：東京、支店：宮崎

持続可能な農業の実現

～生産量の確保、生産コストの低減、販売価格の安定～